

東日本大震災から7年。3月11日に開催された追悼行事など

各地でさまざまな慰霊のための追悼行事が催されました。午後2時46分には追悼のサイレンが鳴り、犠牲者に黙とうが捧げられました。※犠牲者1,064人(震災関連死を含む)、行方不明者152人



1,240個の灯籠のあたたかい光で、鎮魂の願いを込めた「忘れない」の言葉が浮かび上がりました：灯籠供養（仙寿院）※10日に開催



市内などで発見されたご遺体のうち、未だ身元が分からないご遺骨6柱と部分骨4柱のご供養もしめやかに執り行われました。7月には大平墓地公園内に建設される施設に納骨される予定です：東日本大震災身元不明者法要（仙寿院）



「復興の鐘」に鎮魂と希望に満ちた未来を願います：かまいし復興の祈り（釜石駅前広場）



岸谷香さんが呼びかけた高嶋ちさ子さんや中川翔子さんらアーティストが集結し、音楽で復興への想いを綴ったスペシャルライブビューイング：The Unforgettable Day 3.11（チームスマイル・釜石PIT）

竹と和紙で作った3.11の行灯をともして、夜船が浮かびます。集まった人々は、それぞれの思いを胸に海を見つめました。船を彩った折り紙は、前日にかまいしこども園の園児らが作成しました：とうほくのこよみのよぶね（根浜海岸）



多くの犠牲者が出た鵜住居地区。献花とともに犠牲者の冥福を祈り、手を合わせました：釜石市追悼施設（常楽寺境内）



遺族代表の沼崎優さんは、追悼のことばで復興が加速することを期待し、若者が戻り活躍できるまちづくりと、その若者と共に震災の出来事を伝えていきたいと願いました：釜石市東日本大震災犠牲者追悼式（釜石市民ホール TETTO）



釜石製鐵所従業員物故者供養、高橋亦助百回忌供養

3月3日【石応禅寺】

鉄都釜石の立役者・高橋亦助の百回忌と、釜石製鐵所従業員の物故者法要が行われました。高橋亦助は明治7年から16年まで官営釜石製鐵所に雇われた後、18年から高炉操業主任として出銃に挑み続け、19年10月16日、49回目で成功。その後も釜石鉱山山中製鐵所栗橋分工場長として創業当初から尽力しました。法要を共催した高橋亦助顕彰会は、今後これらの偉業を改めて周知する活動も行います。



先人の功績をしのび参列者。このあと横山久太郎、高橋亦助の墓前で手を合わせました



仕事で貯めた仮想通貨を使って、たこ焼きを食べます

三陸こどものまち

3月4日【釜石大観音仲見世通り】

子どもが社会の仕組みや地域の仕事を学ぶイベントが開催されました。これは、子どもが職業体験をすると、その対価として仮想通貨が支払われ、その通貨を使って買い物や遊びなどサービスを受けることができるというもの。鵜住居と甲子の放課後子ども教室に通う子どもたちが中心になり企画しました。子どもたちは「こどものまち」のパスポートを受け取ると、ハローワークでやりたい仕事を探して、求人票を持って職場へ。体験できる職場は消防士、重機オペレーター、考古学者など14職種。飲食店で皿洗いをした小学生は「難しくないし、楽しかった。お金(仮想通貨)は貯めて後で使う」と嬉しそうに話しました。

かまいし地域づくりフォーラム

3月4日【釜石市民ホールTETTO】

これからの時代の新たなコミュニティの形について、東京大学高齢社会総合研究機構の特任講師・後藤純さんが講演した他、市内4地区の生活応援センターが地域づくりワークショップの事例を発表。人口減少や少子高齢化、健康管理など各地区で共通する課題解決のため、それぞれの地区の資源や人材を活用し、各地区が独自の方法で、生きがいを持って健康で楽しく住み続けられる地域づくりを目指します。

集まった約120人の市民に「釜石は課題解決力のある住民が多い。また、多種多様なコミュニティ活動もあるが、入りにくいと思っている人がいる。実は声を掛けられるのを待っていることが多いので、新しい住民を巻き込む活動が必要」とアドバイスしました



虎舞、橋野高炉、ラグビーボールなど釜石が盛り込まれた「釜んライダー」が大活躍

劇団もしょこむ「華とワカメとヒーロースーツ」

3月17・18日【釜石市民ホールTETTO】

被災者のリアルな声を発信した『平行螺旋』で注目を浴び、県内4カ所の他、東京で公演した劇団もしょこむ。釜石で3回目となる単独公演は、市民ホールのプレオープンイベントとして開催され、2日間4回公演で約180人が観劇しました。演目は、念願のヒーローショーの依頼が舞い込むも、個性的なヒーロースーツや音響スタッフが来ないなどアクシデントに見舞われながらも、ヒーローショーを成功させる劇団の様子を描いたコメディ。釜石の小ネタが散りばめられ、テンポの良い掛け合いで終始笑いが絶えませんでした。

市立平田幼稚園閉園記念式典

3月24日【平田幼稚園】

平田幼稚園は、昭和28年10月に私立の幼稚園として開設。昭和53年から市立として1,183人が卒園した平田幼稚園の閉園記念式典が開かれました。昭和56年に旧釜石商業高校の近くに園舎が整備された後、東日本大震災からの復興に向けた土地区画整理事業に伴い、平成27年に平田小、三陸鉄道平田駅近くに移転。4月からは「ぴっころきず平田」を運営する㈱プライムツワンが認定こども園として同所で運営しています。



声を合わせ「たくさんの思い出をありがとうございました！」